

〔 特 集 〕

子どもと毒

～身の回りには危険がいっぱい～

子どもの中毒は珍しいものではありません。5歳以下の子どもの急性中毒事故について、日本中毒情報センターへの問い合わせは年間25,000件以上発生しています。しかも、これはあくまで問い合わせの数であり、この数字は氷山の一角に過ぎません。中毒は小児科診療において比較的マイナーなジャンルですが、その多様性、日常生活との距離の短さ、予防と応急処置といったさまざまな側面で注意が必要です。

今回は「子どもと毒」というタイトルで、中毒におけるリスク認識や初期対応、予防などについてまとめています。職種にかかわらず、子どもと接する機会のある方、みなさんに知っておいていただきたい内容です。こんなことが危険なんだ！という興味先行で構いません。知っているのと知らないのでは大きく違うジャンルの内容だけに、中毒という特殊な語感に苦手意識をもつことなく、気軽に楽しんでいただければと思います。

子どもの中毒といえば思春期以降の自殺企図による薬物摂取もありますが、本誌の対象年齢が0歳から小学生までとなっていること、サブタイトルにあるように身の回りには危険がいっぱいについて知ってもらいたいこと、この2点から今回はあえて省略しました。

(兵庫県立尼崎総合医療センター小児科／伊原崇晃)

